

平成 26 年度「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」(地域会議)

1 対 1 対 談 (名張市) 会議録

- 1 . 開催日時 : 平成 26 年 10 月 18 日 (土) 11 時 00 分 ~ 12 時 00 分
- 2 . 開催場所 : 名張市防災センター 2 階 防災研修室
(名張市鴻之台 1 番町 2 番地)
- 3 . 対談市町名 : 名張市 (名張市長 亀井 利克)
- 4 . 対談項目 :
 - 人口減少ストップ宣言 ~ まち・ひと・しごとの創生 ~
 - (1) 名張市における雇用就業対策について
 - (2) 結婚、妊娠、出産、育児への切れ目のない支援
 - (3) 住宅施策

5 会 議 録

(1) 開会あいさつ

知 事

皆さん、こんにちは。今日は土曜日の午前中のおくつろぎの時間に、このようにたくさんの名張市民の皆さんにお集まりいただいたこと、心から感謝を申し上げます。

また、亀井市長におかれましては、日頃から県政各課にわたりご協力をいただいておりますことを心から感謝を申し上げます。

後でも少し出るかと思いますが、今、三重県は少子化対策や子育て支援に特に注力をしておりますが、その先頭を切っただいている、全国の中でも先頭を切っただいているのは、亀井市長、名張市ですので、そういうところの話も今日、深めていければと思いますし、また、後ほどはアジア大会で銀メダルを取っていただいた奥西選手の明るい話題が名張であったり、また、今年には江戸川乱歩生誕 120 周年と、10 月 21 日が確かそうだったと思いますが、というようなことなど様々な明るい話題が名張のほうで出ている、そんなときにこういう形で 1 対 1 対談をさせていただくのを大変うれしく思いますので、今日は有意義な、人口減少や働くこと、子育ては大変重要な、今後も長く地域が元気でいくための重要な課題であると思っておりますので、限られた時間ではありますが、有意義に過ごしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

名張市長

皆さん、ごきげんよう。この鈴木県政が恒例としていただきました知事と市長・町長との 1 対 1 対談、今日は名張での開催としていただきました。知事にはお越しいただきましてありがとうございます。

今年は、「人口減少ストップ宣言」ということをテーマにお話し合いをさせていただいて、そして、知事と私との心合わせをさせていただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

ただ、今、人口減少、2010年から我が国は人口が減少してきておりますが、その中で国にあっても今、臨時国会を開催いただいておりますが、臨時国会の最大のテーマが地方創生ということで、正に人口減少にストップをかけるという、国会でもしていただいているところです。

ただ、これは全国津々浦々同じ政策で、これをやればよいというのはないわけです。それぞれの自治体がそれぞれ工夫を凝らせてやっていかなければなりません。

例えば今、全国で市町村は1,700あります。そのうちの70%は人口5万人以下の自治体です。残りの30%に日本人口の80%の方がお住まいいただいております。もっと極端に言いますと、政令市とか特例市など大規模な自治体は全国で4%しかありません。この4%に40%の国民がお住まいいただいております。そういうところと中山間の1万人を切るような自治体とでは、自ずと政策が変わらなければならないということで、また、一つだけということでもない、トータルで取り組んでいかなければならない、このように今、思っております。今日、そんな名張版のお話を三重県と一緒にやらせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

あれもこれもというわけにはまいりません。時間がないので、3つだけ絞ってお話をさせていただきたいと思っております。

(2) 対 談

人口減少ストップ宣言～まち・ひと・しごとの創生～

名張市長

今、日本の人口は2010年をピークに下がってきています。ただ、高齢者だけが2040年までに伸びるということです。

東京都、どんとこれから高齢化が進みます。名張は今、ここらの中間ぐらいにあります。三重県の、2010年を100とした場合に、2040年には高齢者が120%、人口が81%になります。ところが、名張はそれよりもっと高齢化が進みます。130%になります。人口は75%になります。

東京の方は、できたら地方へ移住したいと思っている人が5割いらっしゃいます。これは面白いでしょう。お若い方、10代・20代の方は、46.7%、機会があれば地方へ行きたい、住みたいと思っております。50代も多いです。男性は50.8%、51%の方が地方へ行きたいと言っています。奥さんは34.2%、あなただけ行っておいでと言っているんです。旦那さんは奥さんを説得しなけ

ればなりません。私は、東京が便利でいい、とこういうふうに思っています。しかし、これだけの思いをお持ちの方がいらっしゃるということです。

ただ、不安な材料がある。一つは、働き口があるか。地方へ行きたいけども働き口が見つかるのか。続いて多いのが、日常生活の利便性は大丈夫か。これは医療の問題も含めて大丈夫だろうかと思えます。それから公共交通、名張は大体クリアできるのではないかと考えております。

移住を検討するうえで困っていることがあります。一つ、最も多いのは情報がないんです。また、もう一つ大きなのは、都市部の人はどこで情報を取ればいいのかというので悩んでいます。

そこで、どこで住みたいか、ランキング、長野県は3年連続1等賞、福島県は東京から1時間半なので良かったのですが、ああいうことがあったので下がりました。注目すべきは山梨県、2012年は15位、これがどーんと伸ばしてきている。2番になっています。これは皆さん、なぜと思えますか。

三重県は三重テラスというのが日本橋にあります。これは三重県の情報発信基地です。アンテナショップも行ってありますが、ここにあります。山梨県は有楽町にあります。そこで「山梨暮らし支援センター」というのをしています。そこで2人の担当者がありまして、住宅情報、あるいは生活情報、就職の情報、市町村の窓口はここです、こんな市町村がありますというPRをそこでしていただいているんです。

また、「山梨暮らしセミナー」ということで、バスツアーなどで都市部の人を山梨県へお連れして、そこでいろんな体験をしていただいている、こういうことがなされております。

山梨県はもう一つ大きな特色があるのは、空き家率が全国トップです。それで、その空き家をリフォームして住みたいという方に対して、山梨中央銀行が提携して融資をする制度も、トータルでこういうことができているということです。

そこで、知事にお尋ねしたいのですが、三重テラスに「三重県は住むのにいいところですよ」というような情報発信ができないか、それを各基礎自治体と共同してできないかということです。担当者も置いていただいて、そういうことがなってきたらいいのにとということです。

三重県の空き家も全国で12番目に多いですよ。ですので、こういうことの活用も含めてそのようなことがなってきたら、都市部の方をもっともっと三重県へ転入いただけるのではないかとと思えます。これは資料としてお持ち帰りください。

知 事

ありがとうございます。今、亀井市長が山梨県が15位から2位にと行って

いただいたときに、まず、皆さんは「三重県は入ってないな。」と、本当に申し訳ないです。

私もこの情報を知り得まして、うちの担当者に山梨県の取組を調べさせました。どういう具体的な取組を山梨県がやっているのか報告を受けたところ、先ほど亀井市長がおっしゃったように、移住の相談を受けるにしても、非常にきめ細かく受けているとのことでした。三重県も反省すべきところですが、移住の相談と言われたら、こんな家があります、この家にこんな補助金を出しますなど、家の説明が中心になります。

山梨県は、仕事場はこんなところがあります。病院はこうです。周りの環境はこうこうという、市長が示していただいた件をセットで全部紹介をしたり、斡旋をしたり、コーディネートするのを山梨県はその窓口でうまくやっているという、我々も勉強になりましたので、ぜひ、そういう形で考えたいと思います。

三重県の移住に対する取組の現状を少しご紹介しますと、東京、名古屋、大阪の3大都市圏で移住相談会を全国版に入っていくのも含めると12回行っています。東京で6回、大阪で3回、名古屋で3回やっていますが、そのうち、三重テラスでしているのもありますが、今、市長からご指摘いただいたように、単発で終わるのではなく、いつでも相談ができる体制にすることや、専門の人が対応できるようにすることについて、少し検討をしたいと思っています。また、移住相談会は今はどちらかといえば三重県の南部地域の方々に参加していただくケースが多いですが、津市美杉町の皆さんも参加していただいているので、名張市さんも一緒に参加していただいで移住相談会をできればと思いますし、単発で終わらない移住相談の体制づくりについてこれからよく検討していきたいと思っています。

名張市長

例えば、名張の場合でしたら東京からという方もいらっしゃるかわかりませんが、大阪であったり名古屋の方もいらっしゃると思うので、その辺も特に関西の事務所にも頑張っていただいで、仕掛けは我々でしていかなければなりません。ご協力をいただくということをお願いをしたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

知 事

三重県は今まで関西事務所というのは、大阪ばかり向いている大阪事務所という名称でしたが、もっと京都や兵庫も入れて関西全体を入れていこうということで、平成25年度から組織を変えました。亀井市長、名張市さんは非常に積極的に関西事務所を使っていたいただいでいまして、今年も近鉄大阪の駅と奈良

の駅で7月に名張市観光キャンペーンというのを関西事務所を使ってしていただいたり、積極的に関西事務所を使った情報発信をしていただいていますので、そういう一環として移住のことも対応できるような体制について少し検討してみたいと思います。

1 名張市における雇用就業対策について

3 住宅施策

名張市長

次、2点目です。まち・ひと・しごと創生本部が今、国のほうで立ち上げられました。人口減少をこれでストップをかけていこうということですが、これまでと違いますのは、この創生本部には各省庁のエース級が入ってやっていくという。

もう一つは、そこの担当大臣が石破さんと言われる方ですが、大物大臣を据えられまして、今、政府のやる気を示されたわけです。これについて、我々も明後日20日に人口減少に歯止めをかける、そんな自治体連合を作るべく、「人口減少に立ち向かう自治体連合」の設立総会をやるようとしているところです。これからこれを進めていくについては、基礎自治体が頑張らないといけないわけです。国に任せるとか県に任せるということであってはならない。主体はあくまで基礎自治体でなければならぬと思っています。

そういう活動に対して都道府県がサポートいただく。国には各省庁とのつなぎの役割をしていただく、あるいは、今度、これを広域で進めていかなければならないことが増えてきますので、広域でも近隣の広域だけではなく、都市部と中山間との広域もありますから、そういうつなぎにもなっていただきたいと思っています。明後日、石破さんにそんなお願いもしておこうと思っています。大体2,000億円を5年間付けようかということも言われております。

これは、名張市の人口の推移ですが、全国は2010年から微減してはいますが、名張市はその10年前、2000年をピークにして10年早く微減してはいます。人口が減ってきていますが、世帯数は増えてはいるんです。ですから、これは核家族化がどんどん進んでいるということです。

名張市は平成12年から減少に転じましたが、自然減はさほどでもないんです。子ども・子育て、今、頑張らせていただいていますので、平成23年、1年間赤ちゃんが635人、24年が653人、25年、去年が682人と増えています。今年は700人を超えるかと思っていたのですが、出足が遅れています。700人を超えますと、ほぼ毎年お亡くなりになる方も700人を少し超えています。今、ここで自然減が止まります。

問題は社会減です。名張は残念なことに20歳から24歳の年齢層が都市部へ出て行かれます。これは進学、就職、結婚という理由で外へ出て行かれます。

また、結婚してから戻ってこられる方もいらっしゃいます。出戻りということではないんです。ご主人も一緒に連れて戻ってこられる方がいらっしゃいます。意外と多いですよ。しかし、この年代の方がそういう理由で外へ出て行かれるということで、私どもとしても、なんとかここへ対策を講じなければならないと思っています。

毎年、アンケート調査をさせていただいています。これを見ていつも自分は満足しているんですが、毎年、2,000人の方に無作為抽出でアンケート調査をさせていただいています。「名張って住み心地がいいですか」と言ったら、「いいですね、ずっと住み続けたいですわ。」とおっしゃる方が85%いらっしゃるということで、名張は本当に住みやすい良いところとじてもらっているようです。

年齢別では、やはり20~29歳の方が、就職であったり進学であったり結婚であったりということに移る予定があるということです。

今、出生率を上げるのに一所懸命頑張っていますが、最新の名張の出生率は平成24年しか出ていません。25年度は都道府県別が出ていますので、それは市町村の積み上げではないかと聞いたら、違うんです。出し方が違いますと言われる。そのときに名張はどれだけだったか聞こうと思ったんです。そうしたら、統計の出し方が少し違うので、市町村別の積み上げによって出すのはもう少し時間がかかるということです。24年度に全国が1.41、三重県が1.47、そして、名張が1.48。三重県平均よりも高かったということですが、子ども・子育てを今、一所懸命頑張っている成果も現れてきているのかと思います。

一人の女性が生涯にかけて産む赤ちゃんの数、「合計特殊出生率」は名張では1.48ですが、ご夫婦の場合、1.9人産んでいただいています。それなら、なぜ1.43とか1.49になるかということですが、結婚されない方が増えてきました。男性の20%が結婚されません。女性の10%が結婚されないんです。ですので、統計的に合計特殊出生率が1.43とか1.49になってくる。それなら、結婚してもらわないといけないということになります。なぜ結婚しないのかというアンケート調査を三重県がしました。一番多いのは出会いがない、41.4%。皆さん、考えられますか、出会いがないからと。私らはその年代のときは何はさておいても仕事をほっぽり出してでも一所懸命になっていました。が、結局、見合い結婚をしました。

私みたいなのは「肉食系」と言うんだそうです。今の人は「草食系」、「自然体」、で機会がないのではないでしょうか、機会があったらしようかという感じです。

2番目、収入が少ない、39.7%。これが深刻です。ですから、安定就労をきっちりしていかなければならないということです。

自治体が婚活なんて今まで考えられませんでしたでしょう。ところが、そう

いう機会をつくっていかなきゃいけないということで、民間さんは会議所さんなんかはやっていただいています。実績も積んでいただいています。何組かは結婚されています。このほかにNPO法人ちよいまるさんとか、これも実績が上がってきております。あと、株式会社田村さん、あるいは、そこへ百五銀行さんもお協力いただいて、モラロジ事務所さんもやっていただいて実績が上がってきているんです。名張市も11月22日に協働してやらせていただくことになっており、できるだけ結婚いただいて名張へお住まいいただこうとしております。

次の問題として、結婚されるが、今度は住む場所がないということになります。そうしますと、「住宅団地型既存住宅流通促進モデル事業」、これは国土交通省の事業です。これを、今、桔梗が丘をモデル地域としていただいています。桔梗が丘に空き家がたくさんあります。そこを簡単にリフォームさせていただいて、そこへ大勢の方をお呼びしようということにしているところです。ちまちました事業なので、国交省が今、予算要求をしているのは、もっと手厚い補助をしなければいけないとなされています。

桔梗が丘で実績ができてきたら、ほかの住宅団地にも広げていきたいと思っています。

次、これが県と一緒にやらせていただきたいと思っていますが、雇用をこれからもっともっと創出していかなければということでやっていますが、3年間、実践型地域雇用創造事業、2億1,000万円を国からいただいて、こういう新商品の開発をやっていこうということで、今年度から始めています。地域人づくり事業、これは県の基金事業をいただいて、8,600万円の予定ですが、これをやっていくことにしています。

名張は工業団地の空き地がないので、今あるところを有効活用して企業を誘致しようとしていますが、これまでに長瀬小学校にヤマトコールセンター、癒しの里名張の湯、これは開発公社の塩漬け土地です。ナフコさんもそうです。藤森工業さん、これは最後の1区画残っていたところへ来ていただきました。ここでこれだけの雇用を生み出したということですが、これから予定しておりますのは、滝之原小学校へ松阪電子計算センターさんに来ていただくことになっておりますし、国津小学校へは今、交渉中ですが、ジャパングルメという食品のメーカーさんに来ていただくことになっています。

これまで県にいろいろお手伝いいただいてやったのが、皇學館大学さんが撤退されたところへ、今、近大高専さんに来ていただいています。このときに県のほうから近大高専さんがこういうことで紀州から抜けるとおっしゃっていただいて、それで、そこへ一所懸命営業をかけて来ていただきました。県ではいろんな情報をお持ちだと思いますので、これからも一緒にこの部分をお手伝いをいただきたいと思います。大きな生産工場はできませんが、付加価値の高いような

ものを呼び込みたいと思っておりますので、この辺について、これから県の支援をいただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

知 事

今、市長から多岐に渡ってお話いただきましたが、人口の社会減の中で進学と結婚と就職で人が抜けていく部分が大きいので、そこを一緒にやっというお話だったと思います。

順番に申し上げますと、進学は特に三重県、厳しいです。特に高校から大学に行くとき、三重県で四年制大学に行く子が、大体毎年 8,200 人ぐらいおります。この 8,200 人のうち、三重県内の大学に行く子が 1,600 人で、3,900 人が愛知県に行ってしまうということです。では、8,200 人全員が三重県内の大学に行きたいといたら行けるのかという、大学の定員を調べてみたら 3,200 人しかありません。8,200 人が行きたいと言っているのに 3,200 人しか定員がありません。3,200 割る 8,200 で、この割合は「大学収容力」と言いますが、これが全国で 45 位、すごく低い、大学の数、定員がすごく低いのが三重県の特徴で、これからなんとか、今、東京や京都に定員が溜まっていて、それで定員割れしているような大学がたくさんあるので、そういう国立大学や私立大学の定員をもっと地方に分けてと。先生たちも分けてと、そうしたら、地方で進学してできると国にも言いながら、それと、一方で、三重県内の高等教育機関、昨日も学長さんたちがやりました。名張の近大高専の村田校長にも来ていただいて、それぞれの大学や高専が魅力ある場所でないといけないので、そういうのをやっというのを今やらせていただいています。特に来年度 27 年度は、学ぶ場をいかに良くしていくかというのをしっかりとやっていきたいと思っています。

これは大学だけが頑張ればいいのではなく、県内の大学や高専にも良いところがあるというのを県内の高校生や中学生の子どもたちにもよく知ってもらわないといけませんので、あとは進学の先生方の協力も、東京のいい大学へ行かせたら進学の先生の評価が上がるというのではなく、地元で貢献する子をしっかりと輩出することが先生も評価される、そんな感じのことも含めて高校も含めた取組をやるということ、今、いろいろ考えているところです。

それから、結婚。先ほど婚活の話がありました。いい夫婦の日にされる婚活。ちなみに名張市さんの男性・女性が、2010 年にどこに出ているかと言いますと、男性は関西圏に 178 人出て行っています。女性は 402 人出て行っています。結婚で名張市の女性が関西圏にたくさん出て行っているということなので、名張の中で結婚の出会いの場があれば、住みよい名張で住んでいただけるので、そういう出会いの場をつくっていくのが重要だと。一昔前までの行政から考えると、結婚支援なんかには行政が金を出してどうするのか、いま

だに言う人もいます。でも、先ほど亀井市長がおっしゃったように、合計特殊出生率が下がっている原因が、生涯未婚率、結婚しない人が増えていること、晩婚になってということです。

国の少子化対策の交付金では、結婚のところの予算が対象になっていなかったのですが、三重県独自で去年の亀井市長との1対1対談で、少子化の問題で地域の実情に合わせて市や町が自由に使える交付金をつくってほしいと市長からご提案いただいて、それを今年度つくりました。それは国の制度はこういう結婚支援を対象としていませんが、三重県はそれを対象にするということで、市や町が民間の団体などと一緒にあって結婚の出会いの場をつくっていくことを間接的に応援する事業の交付金もさせていただいていますので、なんとかその予算の確保も来年度以降もできるように努力をしていきたいと思っています。

それから、働く場です。何といたっても働く場が一番深刻ですので、先ほどの企業の誘致の関係や我々も様々に情報が来ておりますので、そういうので適する場所などを市にも提供させていただきながら、一緒に企業に対するPRをこれからもしっかりやっていきたいと思っています。

話はそれますが、この前、名張市のブリヂストンケミテックさんに行かせていただいて、障がい者雇用の様子を見せていただきました。極めて先進的に市が思いっきりバックアップして、働く場ということでは、こういう社会減を止めるための働く場も大事ですが、障がい者の方や高齢者、女性が働ける場という、働く場の質的な中身を向上させていくことも大事だと思って、三重県は障がい者の実雇用率が全国で最下位に今ありますが、名張市さんは障がい者雇用を今、一所懸命やっていますので、そういう面でもリードをしていただけるとありがたいと思いますし、働く場をたくさんつくることについては、先ほど市長からあったような企業誘致や、その企業の投資の情報提供のようなことを県としても積極的に取り組んでいきたいと思っています。

2 結婚、妊娠、出産、育児への切れ目のない支援

名張市長

大変力強いメッセージをいただきまして、ありがとうございます。

それでは、次が最終ですが、これまで一所懸命、我々は子ども・子育てにいろいろ取り組んできましたが、今度、「子ども3人目プロジェクト」というのをしたいと思っています。これは、結婚、妊娠、出産、育児への切れ目のない支援、これを「ネウボラ」と言っていますが、各まちの保健室などを拠点にこれからどんどん展開をしていきたいと。

第3子以降の子どもに関する経済的負担の軽減ということですが、これは今まで保健師が母子健康手帳を発行するときに、妊婦さんに聞き取り調査をして

います。1人目の子どもさんを授かったときは喜びが大きいのですが、2人目、3人目となりますと、不安が大きくなっていきます。その不安の中心的なものは何かというと、経済的な負担がかなりかかってくるのが不安だとおっしゃっています。ですので、3人目の子どもさん以後になりますと、経済的なこのような負担を軽減する対策を講じることによって合計特殊出生率を上げていくことができると思っています。

当然ながら保育サービスの充実、まず、名張は保育料を3人目の子どもさんを3歳までは無料化していこうということで今、検討をして、来年度から始めたいとしております。

ほかには、昨年度から子どもセンターを立ち上げました。それによって市外から17組のご家族が名張へ転入してくれました。今年も2組です。発達障がいをお持ちの子どもさんを、名張は医療職、福祉職、教育職が切れ目なくきっちりスクラムを組んでサポートしていこうという体制が作られたからですが、ほかに今年の1月からは、市立病院に子どもの救急センターを立ち上げました。24時間365日ウェルカムです、ということでさせていただきました。

ほかには、予防接種なども他の自治体よりは手厚くさせていただいております。例えば、ロタウィルスワクチン、子どもさんの重症化を避けるためにやっています。

そういう中で、これまで24時間365日の小児救急の場合ですが、これは当然赤字です。ところが、伊賀の方からも喜ばれておりまして、これを続けていかなければならない、より充実をしていきたいと思っています。

今日、一つだけ、また提案してお願いをしたいことは、いみじくも今日、先ほどの「すごいやんかトーク」でもおっしゃったのですが、知事が1期目の選挙に出られるときに子ども・子育ての充実をしていくんだと。そして、子どもの医療については、小学校6年生まで無償化していこうと公約されました。今まで高齢者福祉ばかりをいろんな政治家は言われていましたが、知事が初めて子ども・子育てに対しての支援を言われました。それをかなえていただきました。県が2分の1、基礎自治体が2分の1で、小学校6年生までは医療費が無償化となりました。

もし仮に知事が2期目挑戦となったら、中学校まで無償化をかなえていただいたら、非常にありがたいと思いますが、皆さん、どうですか。これは予算も伴うことですので、一度、検討課題としていただいたらどうかと思いますが、ご所見があれば。

知 事

最後のは最後に言いますが、先ほども少々触れましたが、子育て施策では名張市が全国に先駆けて、三重県内で先駆けてしていただいていることがたくさ

んあります。ここには出てきませんでしたが、保育ママといいます、家庭的保育、保育所とかではなく、少人数で乳幼児を一定の研修を受けた人が見るといふ家庭的な中での家庭的保育を三重県の中で先陣を切ってしていただいたのも名張市ですし、先ほどもサタパパ広場、子ども支援センターかがやきへ行かせていただきましたが、男性の育児参加の部分を一所懸命やろうとやり始めてもらったのも名張市ですし、そういう形で非常に先進的な取組をしていただいています。中でも、今、注目を浴びているのが、先般も前の少子化担当大臣が来て見ていただいた「名張版ネウボラ」です。これは名張市が今まで15地域ごとに地域の住民協議会があって、そこに公民館を軸としたつながりがあって、そこにまちの保健室があってという、自治会の皆さんや住民協議会の皆さんみんなの協力の中で、地域のネットワークができていたので、そこに入れることができたのであって、なかなかまねをしようと思ってもほかの地域では難しいのですが、三重県ではなんとか名張市さんが先頭を走ってもらったのを、うまく水平展開でしていきたいと思います。今日はここにありませんでしたが、0歳、1歳、2歳のときに、こういう部分の支援が欠けているというピフォア・アフターみたいな表があるんです。亀井市長がよく使われる。それを見ると、そこをネウボラで埋めるという分かりやすいのがあって、我々も大いに期待をしているところですので、ぜひ、そういう面もサポートをしていきたいと思えます。

それから、第3子のところについては、国も多子世帯支援ということをおっしゃっていただいている、まだ、どういう形でいくか分かりませんが、国の動向を見ながら、県もどういう役割を果たしていくか、しっかり考えていきたいと思えます。

1人目、2人目、3人目のときに、そのハードルとなること、あるいは前進する要因はそれぞれ違うわけで、子ども1人目が生まれるときは、今の世代で言うと、大体仕事と家庭の両立が図れるか、これは保育サービスなどの影響が大きいです。1人目から2人目にいくときは、まず、パートナーがしっかりと育児に参画をしてくれたかどうかということと、産後ケア、1人目を産んだ後の産後が安心した環境で子育てができたかどうかということが、2人目にいくことに対して非常に重要とされています。

2人目から3人目は、正に亀井市長が指摘されたように経済的負担が一番大きいので、ここをいかに軽減できるかということですので、三重県も三重県の県民意識調査でいくと、理想の子ども数は、2.5人、2人か3人というのが理想の子ども数なんです、実際の子どもの数は1.6、1人か2人ということです。ここに理想と現実にギャップがある。この隔たりをどう埋めていくかが大きな課題ですから、その経済的負担を軽減するのも一つの対策だと思いますから、どういうことができるか、国の動向も見ながらしっかり検討していき

たいと思います。

最後におっしゃっていただいたのは、自分なりに思い入れがあって、小学校6年生までの医療費の無償化をさせていただきました。これは県が2分の1ですが、市町でも2分の1を出していただかないといけないので、市町の財政負担にもなる中で、それぞれ首長さんのご理解を得てご英断いただいて、一緒に24年9月からスタートすることができました。

実際、私の息子も2日前に気管が詰まって、たんが詰まったみたいにガラガラとなって、夜に泣き出してしまったので、12時前ぐらいだったと思いますが、うちの近所の子どもクリニックに連れて行きましたが、そこへ行くと、当然そこで医療費がかかるわけですが、息子は2歳ですから後でただになります。そういう子育て世代からすると、子どもの病気が急に起こったりすることへの不安とかが大きいので、非常にニーズが高いのは十分承知をしております。

一方で、県だけでも決められない話ですので、いろいろな様々な方面から、年齢を上を上げてほしいというお話もあれば、窓口負担がまだ、今は一度払って後で戻ってくる形になっているので、窓口を無料にしてほしいとニーズもありますし、一方で、福祉医療費の助成の関係では、精神の2級の部分をふやしてほしいという話もあつたりします。いろんな観点がありますが、亀井市長にもメールをいただいたとっておりますので、よく検討をさせていただければと思っていますところ です。

最後は奥歯にものが挟まったような答弁で済みませんが。

名張市長

どうもありがとうございます。知事、先ほどから子ども・子育てについて、名張の取組が最も先駆的だということでお褒めいただきましたが、このような取組ができるのは市民の皆さんの協力があればこそでして、それがあがるゆえに、こういういろいろな取組ができてきています。そして、まちの保健室の職員の頑張り、保健師の頑張り、そういうのが結集されて非常にいい状況で回ってきています。

明日、明後日、人口減少に立ち向かう自治体連合の立ち上げのときに、NHKが取材して名張の子育ての取組を紹介するということです。多分その夜のニュースだと思いますが、また、特集的にもやりたいとおっしゃっておりますので、これからも一所懸命この部分の充実に努めていきたいと思っております。

(3) 閉会あいさつ

知 事

今日は皆さん、土曜日にお越しいただきありがとうございました。

人口減少に立ち向かうということで亀井市長が一所懸命やっていたいていることを県も一緒になって頑張っていきたいと思ひますし、今日は、私の妻

も近大高専で講演を市民講座、夫婦で名張でお世話になっていますが、これからもしっかりと頑張っていきたいと思いますので、先ほど市長からもありましたように、子育ても人口の社会減とかも行政だけではできませんので、どうか市民の皆さんのご協力もいただいて、一緒に住みよい町、名張市や三重県を維持できるように、共に力を貸していただければと思います。

今日はどうもありがとうございました。